

## 第3学年 社会科の実践

1、単元名 「見つけたよ、まちの人たちの仕事～買い物の達人になろう～」 (全17時間 本時第12時)

### 2、単元目標

○地域の人々の販売に関する仕事の特色や工夫に関心を持ち、それらを意欲的に調べることにより、自分たちの生活と地域の販売の仕事との関わりについて考えようとするとともに、地域の人々の販売に関する仕事の特色や工夫、その仕事自分たちの生活を支えていること、地域の販売の仕事と国内外の他地域との関わりについて理解する。

○地域の販売に関する仕事自分たちの生活を支えていることや、販売の仕事の特色、販売の仕事と国内外の他地域との関わりを、見学や調査、作業的な活動などを取り入れて調べ、販売の仕事に携っている人の工夫について考え、適切に表現する。

### 3、ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

研究課題「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」

手立て 子どもの願いや思いの育ちを見とった単元構想と授業作り

ブロックテーマ 「追究する力、仲間と支えあう自分」

・自分の問題をとことん追究する姿 ・仲間と協働して追究する姿

#### 【ひびき合うための手立て】

学習課題に対しては集中して真面目に取り組み、つぶやきも多い。指示はできるだけ明確にしたり、具体物を提示し、課題のイメージがもてるような工夫をしたりしている。また、ペアや班での話し合いや活動の時間を大切に、一人ひとりが自分の考えをもってから、全体で話し合う形をとるようにしている。年度当初は、発表する場面では消極的になる子もいたが、「まちがっても大丈夫。」という雰囲気を大事にして、1時間の授業中にできるだけ多くの児童が発言する様に意図的に指名をしてきた。まちがってしまったら友だちから「おいしい」「ドンマイ。」などの声があることで、みんなで一緒に学んでいるという雰囲気が作れている。また、友だちの「わからない。」に対して言葉だけではなく、絵や図を使って、教えあったり、説明をしたりする姿も見られるようになってきている。

授業中のつぶやきが多く、反応は良いのだが、とくに話し合いの活動の時には「自分が話したい。」という気持ちが強い児童が多い。そのため、様々な場面で「話す、聞く」のルールをクラス全体で一つひとつ確認することを丁寧に取り組んできたことで、お互いが「あたたかい聞き方」「やさしい話し方」を意識し、落ち着いて学習に取り組めるようになってきている。

### 4、単元と指導について

#### 【単元について】

前単元の「ものを育てたり作ったりしている人たち」では、小田原の名産品として昔から作られてきた「かまぼこ」を教材として取り上げ、学習を進めた。まち探検で学区にあるかまぼこ通りを訪れているため子どもたちにとって身近なものであり、かまぼこ工場の見学を通して製造工程を調べたり、働く人の生の声を聞いたりして「かまぼこ作り」について理解を深め、もの作りに携るひとの思いについて感じる事ができた。

本単元では、児童の身近にあるスーパーマーケットや専門店を取り上げることで、より自分のこととして理解を深めていくことができる。ふだんどこで買い物をしているのかを調べることで、「どうしてスーパーマーケットで買い物する人が多いのかな。何かひみつがあるのかな。」「スーパーがあるのにどうして専門店で買う人がいるのかな。」という素朴な疑問が生れるであろう。その疑問をもとに、いろいろな販売店について今までとは違った目で捉えなおす機会を作り、学習を展開していきたい。また、スーパーマーケットと専門店の2ヶ所の見学を取り入れることで、それぞれの店の良さに気付き、販売者側にも様々な工夫や思いがあること、その中で消費者が自分のニーズにあったお店を選択していることについて考えさせていきたい。こうした身近にある店を通して、家族の消費生活を見ていくことで、よりよい買いものをしていくための力を育てていきたい。

## 【指導について】

本単元は、地域にあるスーパーマーケット(小田原百貨店)を扱った後に、学区内にある鮮魚店「魚国」を取り上げる。スーパーマーケットでの買いものの経験は多少あるものの児童によって生活経験は異なっており、専門店で買いものをした経験がある児童はとて少ないのが実態である。「魚国」に関しては学区探検でお店の存在は知っているのも、児童にとっては身近にある地域のお店を扱うため、思いを込めたり考えたりしやすくなればと感じている。

### 〈単元の導入について〉

単元の導入では「クリスマスやお正月にむけて買い物の達人になろう。」と題し、「買い物の達人になって家族のために自分で買い物をしたい。」という思いからスタートする。買い物の達人になるにはどうすれば良いかを考え、「いろいろなお店の良さを知らないで達人にはなれない。」との思いから買い物調べを行い、「ミッション」と名づけておうちにいる達人に話を聞いてくる活動をし、「なぜ?」「どうして?」といった疑問を大切にする。さらに児童が調べてきた結果を表にまとめることで、資料とし、その表から分かることやさらに疑問に思うことなどを拾っていき、本単元の中心へとつなげていく。そして、児童の行った「買い物調べ」に対する事実から出る疑問やつぶやきを吸い上げ、学習問題を設定していきたい。

調べていく段階では、学習問題に対して、一人ひとりが予想を考え調べる際の視点をもてることを大切にしていきたい。学級での問題を大切につつ、個々の問題や疑問にも立ち返り考えさせたり、学級全体で共有したりする場を作り、その後を追究すべき問題を明確にもてるようにしていく。

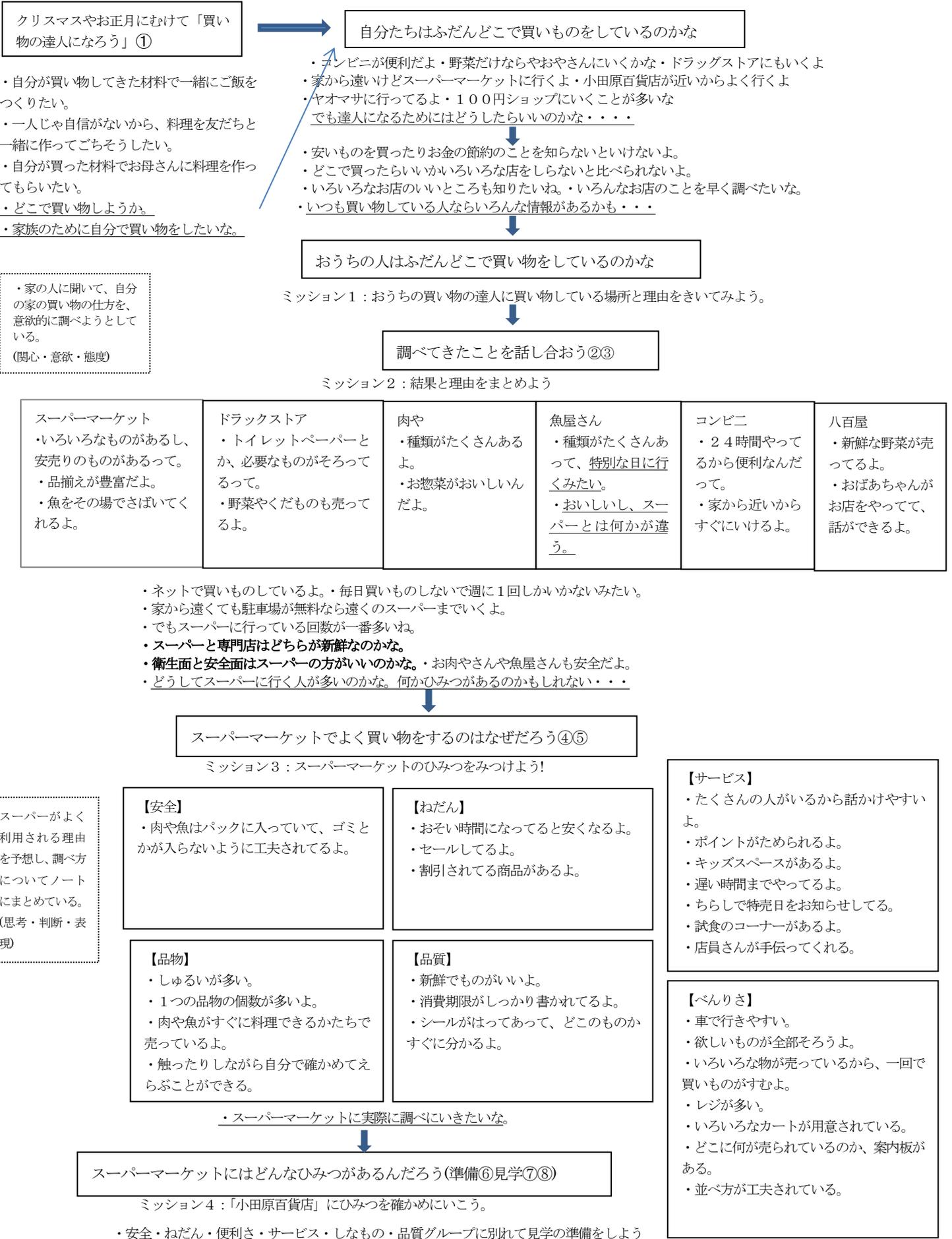
### 〈本時について〉

買い物調べの結果について話し合いをした時に、「どうしてお肉や魚が好きな人がたくさんいるのに専門店ではなくてスーパーマーケットで買う人がいるのかな。」との児童の言葉から、「スーパーマーケットと専門店はどちらが新鮮なのかな。」「衛生面と安全面はスーパーマーケットの方がいいと思うよ。」「専門店だって安全だよ。」との話し合いになった。「専門店とスーパーマーケットは何かが違うんだけど何がちがうのかな。」というつぶやきは常に子どもたちから出てきており、まずは多くの人を利用するスーパーマーケットのひみつを探してきた。スーパーマーケットの良さや工夫をたくさんみつけた中で、「同じ物を売っているのに、どうして専門店で買い物をしている人がいるのかな。」という問題がより切実になっていくと考える。本時では、みんなで「どうして専門店で買い物をしている人がいるのかな。」という問題を解決していきたい。専門店で買い物をした経験がある児童は少なく、スーパーマーケットのときのように、販売の工夫について具体的な予想を立てることは難しいと考える。そこで、前時では店の様子を写真で紹介し、予想の手がかりとすることで、一人ひとりに自分なりの考えをもたせた。また、班での話し合いの時間も設けることで、一人では資料を読み取り、自分の考えをもつことが難しい児童も、自信を持って活動ができるようにした。写真を見て気付いたことをあげたが、スーパーマーケットにあった良さと、写真をみただけの専門店の良さは混在している。そこに買いに行く人の気持ちに気付くことが本時のねらいである。専門店ならではの良さにまだ気付いていない児童が、友達と話し合うことで自分たちの力で気付いていけるように、子たちの言葉でつないでいきたい。児童の生活経験、教師が提示する資料、スーパーマーケットの店調べという手立てをもとに、様々な予想を出し合い、「もっと詳しく知りたい。」「本当にそうなのか調べたい。」という追究への意欲を喚起し、クラス全体で話し合う場面では、友だちと話し合うことで専門店ならではの良さがあることに気付いていくことをひびきあいの姿としたい。鮮魚店「魚国」への見学はクラス全体で訪問し、店内や商品の様子を観察したり、お店の人の話を聞いたりする。自分が確かめたいこと、質問したいことをしっかりとらせ、観察、調査ができるようにしたい。また、そこで働く人の声、すがた、表情から働いている人の「みんなに小田原の魚を好きになってもらいたい。」「お客さんが望む物を、一番おいしい状態で提供したい。」との思いに触れることで、自分が住んでいる地域の人やものへの愛着をもたせ、自分たちの住む地域のこれからの考えるきっかけとしたい。

## 5、単元構想

### 「見つけたよ、まちの人たちの仕事」(全17時間)

◎単元目標：地域の販売に関する仕事に関心を持ち、買い物調べや商店の見学を通して、地域の人々の販売に関する仕事の特徴、その仕事が自分たちの暮らしを支えていること、地域の販売の仕事と国内外の他、地域との関わりなどについて理解し、よりよい生活を求める消費者と販売に携わっている人々の工夫や努力について考え、適切に表現する。



ミッション5：みつけたひみつを話し合おう⑨⑩

・見学したり、調査したりして、販売の仕事に携わっている人の工夫について情報を集め、調べたり分かったりしたことをノートにまとめている。

(観察・資料活用の技能)

- ・お魚屋お肉を切っている人たちはみんなかまぼこ屋さんの時みたいなの服装だったよ。
- ・しっかりパックされてたよ・作りたてのおそうざいがたくさん売っていたね。
- ・品物の種類が多かったね。・果物はきせつのものがたくさんあったね。
- ・商品によって、保管されている場所や温度がちがうんだね。
- ・割引にもいろいろなしゅるいがあるんだね。・手作りの案内板があったよ。
- ・時間で安くなるものがあるんだね。・自分たちで値段を決めているものがあるんだね。
- ・いろいろな産地のものがあったね。・市場で仕入れているものがあったね。
- ・野菜を作っている人の名前や写真が書いてあったよ。
- ・予想した通り工夫がたくさんあったね。・やっぱりスーパーは便利なところがたくさんあるね。
- ・でも買い物調べでお肉やさんや魚屋さんに行っていた人がいたよ。
- ・小田原は魚が有名だったよね・・・

・同じものを売っているのに、どうして専門店で買う人がいるのかな。  
きっと何かひみつがあるのかな。



どうして専門店で買う人がいるのかな⑪⑫(本時)

ミッション6：専門店のひみつをみつけよう

- ・スーパーマーケットとはちがう、専門店の特徴はなんだろう・・・
- ・お魚が新鮮なのかな。・特別な日に買い物に行っていたよ。

専門店のいいところをみつけよう

予想の足場となるような写真(4枚)を提示する。

・スーパーマーケットにおいてない魚があるね。  
・すぐく光ってるから新しいのかな。

・何かもっているけど、きっとひみつの道具なんじゃないかな。  
・横にあるのは水槽かな。  
・生きている魚が入っているのかな。

・小田原産の魚が多いね。  
・氷水に入っているから新鮮なんだよ。  
・バックに入っていないくてそのまま置いてあるね。

・マグロでもねだんがちがうんだね。  
予算に合わせてかえるのかな。  
・大きいのも細かいのもあるから、自分で食べたいものを選ぶのはいいね。  
・バックされていないのはなんでかな。

専門店の様子を写真で用意し、予想のてがかりとなるようにする。

班ごとに写真資料をもたせ、資料をもとに予想できるようにする。

前時までの学習活動のあしあとを掲示しておき、振り返るようにする。

・専門店の良さについて、写真や資料に基づいて分かったことや気付いたことをノートにまとめている。

(思考・判断・表現)

・専門店で買い物をする理由について、スーパーマーケットの工夫と関連づけて考え、専門店の良さを見いだしている。

(思考・判断・表現)

- ・スーパーマーケットにはない専門店の良さはなんだろう・・・
- ・水槽があるから新鮮なのかな。・スーパーマーケットの魚も新鮮だったよ。
- ・値段は高いのも安いものもあるんだね。・高いけどおいしそうだね。
- ・魚の種類が多いのかな。・大きくてめずらしい魚があるよ。
- ・市場で仕入れているのはスーパーマーケットと同じだね。
- ・小田原の魚がたくさんあるからそれを求めて来る人もいるのかも。
- ・きっとお店の人が小田原の魚のことにくわしいのかな。

魚やさんに行って自分の目でひみつを確かめたい!



魚屋さんのひみつをもっとしりたいな(見学⑬⑭まとめ⑮)

ミッション7：魚屋さんのひみつを確かめに行こう

- ・新鮮なものを早川漁港から仕入れているんだね。・魚の種類がたくさんあったね。
- ・お店の人が直接説明してくれたよ。・切っているところが見られたね。
- ・切り身で買えたり、まるまる買えたりするんだね。・旬の魚があったね。
- ・おいしい食べ方をおしえてくれたよ。・安いものもあるけど高いものもあったね。
- ・いいものが買えるんだね。・生きている魚が泳いでいたよ。
- ・買う人がしっかり考えて買いものをするのが大切なんじゃないかな。

今まで調べてきたひみつを家の人に伝えたいな。



ミッション8：買い物達人ガイドブックを作ろう⑯

ガイドブックを作って家の人にスーパーマーケットや専門店の良さを知ってもらおう。

どんな時にどんなお店に行くといいのかな。



ミッション9：自分たちで家族のために買いものの計画を立てよう⑰

- ・ぼくはめずらしい魚があったから魚屋さんで買ってみようかな。・いろんな物が全部そろうからやっぱりスーパーにしようかな。
- ・お肉屋さんにもいってみたいくなったな。・いろいろ考えながら計画するのは楽しいね。

・地域にはさまざまな販売に関する仕事があり、それぞれが工夫をして、人々の暮らしを支えていることを、理解している。

(知識・理解)

・地域の人と関わり、店のさまざまな販売の方法を知ること、地域への愛着が高まっている。

(関心・意欲・態度)

6、本時の学習(12/17)

(1) 本時目標 今までの学習を生かし、友だちと話し合うことで専門店ならではの良さを見だし、気づいていくことができる。

(2) 本時展開

学習活動	主な支援・留意点 ☆評価
<p style="text-align: center;">どうしてせんもんで買う人がいるのかな</p> <p><b>○しゅるいが多い</b>            ・スーパーマーケットにはない魚がある            ・めずらしい魚がある</p> <p><b>○小田原産の魚が多い</b>            ・地元のさかながおいしく食べられる</p> <p><b>○お店の人がとくべつなことができそう</b>            ・すぐにしつ間に答えてくれる            ・魚のことにくわしそう</p> <p style="text-align: center;">魚やさんに行ってひみつを自分の目でたしかめに行こう!</p> <p>1 前時をふりかえる。            2 みんなから出た気づきからクラス全体で専門店の良さを考える。            3 専門店ではどこを見たり聞いたりしたいかをノートに書く。</p>	<p>・前時までの学習活動のあしあとを提示しておき、振り返るようにする。</p> <p>・今までの学習してきたことや、スーパーマーケットの良さを比べながら、専門店の良さを考えられるよう、児童が発表する際に掲示物を活用する。</p> <p>・相互指名をしたり、教師から意図的指名をしたりして、話し合いの内容を専門店の良さを見つけていけるものになるよう焦点化していけるようにする。</p> <p>・専門店とスーパーマーケットの両方にある良さと、専門店ならではの良さがあることに気付いていけるよう、立ち止まり深めていけるようにする。</p> <p>・今の時点でわからないことは、次回の見学で確かめたい大切な疑問として確認をする。</p> <p>☆専門店で購入をする理由について、スーパーマーケットの関連と理由づけて、専門店の良さを見いだしている。            (思考・判断・表現)</p>

7、実践を終えて

(1) 本時に至るまでの経過(どのように単元を作ってきたか)

子どもたちの思考を大切にしながら、単元構想を作ってきた。単元の導入では「クリスマスやお正月にむけて買い物の達人になろう。」と題し、「買い物の達人になって家族のために自分で買い物をしたい。」という思いからスタートとした。買い物の達人になるにはどうすれば良いかを考え、「いろいろな店の良さを知らないで達人にはなれない。」との言葉から、買い物調べを行った。買い物調べの結果について話し合いをした時に、「どうしてお肉や魚が好きな人がたくさんいるのに専門店ではなくてスーパーマーケットで買う人がいるのかな。」との疑問が出て、「スーパーマーケットと専門店ではどちらが新鮮なのかな。」との話し合いになった。「専門店とスーパーマーケットは何かが違うんだけど何がちがうのかな。」というつぶやきを大切に、まずは多くの人が利用するスーパーマーケットのひみつを探してきた。スーパーマーケットの良さや工夫をたくさんみつけた中で、「同じ物を売っているのに、どうして専門店で買い物をしている人がいるのかな。」という問題がより切実になった。専門店で買い物をした経験がある児童は少なく、スーパーマーケットのときのように、販売の工夫について具体的な予想を立てることは難しかったため、前時では店の様子を写真で紹介し、予想の手がかりとして、一人ひとりに自分なりの考えをもたせた。また班での話し合いの時間も設けることで、一人では資料を読み取り、自分の考えをもつことが難しい児童も、自信を持って活動することができるように考えた。

(2) 本時での様子

本時では、前時で気付いた専門店の良さを話し合う中で、スーパーマーケットの良さを比較しながら、様々な予想を出し合い、「専門店ならではの良さ」に気付いて行くことをねらいとした。導入では前時を振り返り専門店ならではの良さを見つけていくために「どうして専門店で買う人がいるのか」と発問をしたが、まだ前時で自分の意見を話したりなかった子どもたちが写真から分かった良さを発表しあう場面が続いてしまった。その中で後半に入り、何人かが「専門店ならではの良さ」に注目し、「スーパーよりも小田原産のものが売っているからお客さんがくるのだと思う。」「専門店でしかない魚が売っている。」などの意見が出ることで、「専門店ならではの良さ」について子どもたちの言葉でつなぎながら、専門店で買いに行く人の気持ちに気付くことができるようになった。

### (3) 授業後の様子

鮮魚店「魚国」への見学は、十分に話し合い、自分が確かめたいこと、質問したいことをしっかりと行って行くことができたので、子どもたちにとってとても充実したものとなった。品数の多さや新鮮さなどを目の当たりにでき、また、そこで働く人の声、すがた、表情から働いている人の思いに触れることができた。「みんなに小田原の魚をもっと好きになってもらいたいから、漁師は命がけで漁をして、ぼくたちはお客さんが望む物を、一番おいしい状態で提供しているんです。」との働いている人の言葉を真剣に聞いていた。見学後はスーパーマーケットと専門店の見学からわかった双方の良さを分かりやすく伝えるために個々に「ガイドブック」を作成し、班で発表し合った。また出来上がった「ガイドブック」は家の人に渡し、年末年始と一緒に買い物をする事ができた。

### (4) 単元を通しての成果と課題

本校の研究テーマである「ひびきあう姿」は、自分の考えを発表し合う話し合いの中で見る事ができた。「〇〇さんが言っていたけど・・・」と友だちの考えにつなげながら、自分の思いや考えを発表しようとする意欲が見られた。ペアや班での活動を取り入れていく中で、「〇〇くんがこんなことに気づいているよ。」「それは知らなかったからもっと自分の目で調べたい。」など、仲間と協働し問題を追究する姿も見られた。また、相互指名をしている中でも、教師が意図的に児童を指名していくことで、本時のねらいにせまる話し合いへとつながることができた。

課題としては、子どもたちが授業中に気付いたことを中心に整理し、子どもの思考に寄り添った板書をしていくことや、教師の出所として、話し合いの焦点化をしていくことが大切であったと学ぶことができた。さらに、子どもの変容を見取る上でも、発表だけで終わるのではなく、問題に対する自分の考えを書く時間を保証することが大切であると感じた。

今回学んだことを生かせるよう、今後も子どもたちの思いを大切に、ひびきあう授業作りをしていきたい。